

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

| 都道府県名 | 神奈川県 | 市町村名 | 川崎市 | 大学名 | |
|--------------|--|------|-----|-----|--|
| 派遣日 | 令和 5年 9月 29日 (金曜日) 13:30~16:30 【日程】 14:00~ 開場 オンライン接続開始 14:30~ 開会 挨拶・講師紹介 14:40~ 講義 「外国につながるのある児童生徒への支援の充実のために」 15:50~ シェアリング 16:05~ 質疑応答 16:15~ 振り返り 事務連絡等 16:30 閉会 | | | | |
| 実施方法 | ※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / 遠隔 | | | | |
| 派遣場所 | 川崎市教育会館 〒211-0011 川崎市中原区下沼部 1709-4 | | | | |
| アドバイザー氏名 | 齋藤ひろみ先生 | | | | |
| 相談者 | 川崎市教育委員会事務局 教育政策室 人権・多文化共生教育担当 | | | | |
| 相談内容 | <p>日本語指導が必要な児童生徒への支援体制は整ってきたものの、実際の学校での日本語指導が必要な児童生徒への在籍学級での支援や学校全体での多文化共生の充実には至っていない。また、日本語指導担当者の年度ごとの入れ替わりが多く非常勤の先生も多いこともあって、学校によって日本語指導に対する認識の差が大きく、学級担任が日本語指導者や初期支援員任せと考えていたり、教科の評価に関わるため取り出し指導を拒否したりする場合もある。加えて、言語発達と発達障害、学習障害などとの関連や見取り方、適切な支援の仕方についての悩みを抱えている学校が増えている。</p> <p>そこで、日本語が十分ではない児童生徒への日常的なアプローチの仕方や在籍学級での教科に結び付けた支援方法、言語発達のプロセスと発達障害等への支援、学校内での連携、様々な環境にある児童生徒の自己肯定感を高める寄り添い方法などを多くの先生方に知ってもらい、川崎市全体での実践につなげたいと考えた。</p> <p>アドバイザー派遣制度を活用して、在籍学級担任を含む外国につながるのある児童生徒に関わる幅広い先生方へと対象を広げて研修を行い、川崎市全体での支援に厚みをもたせたい。</p> | | | | |
| 派遣者からの指導助言内容 | <p>1 組織的な取り組みに向けて</p> <p>(1) 支援・教育の担い手の間の連携 多面的に捉えた子どもの実態・現状の共有 → 課題の再設定 → 立場・専門性の異なる者の協働による解決 ⇒ 組織が機能、支援・指導の有機的・構造的結合=解決 児童生徒に関わる者同士で情報を共有し、解決に向かう力を結集</p> <p>(2) 事例に学ぶ一校内の有機的連携 事例1 外国人児童生徒等の教育に対する認識を変える 事例2 日本語指導担当者と他の教職員との相互理解を図る 事例3 中国帰国児童理解を軸にした国際理解教育の実施</p> <p>2 「ことば」の学びと「学習」を結び合わせる (1) 日本語教育の課題—成長・発達を支えること</p> | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| | <p>成長・発達過程にある子どもにとってことばを獲得すること ＝世界を広げ成長・発達すること (≠言語知識や技能の獲得) 日本語教育≒成長・発達を支える全人的教育 ＜日本語教育の課題＞ A 学校・社会生活...文化適応とコミュニケーション B 学習・認知面の発達...教科等への学習参加 C アイデンティティ形成・自己実現 ...キャリア形成・社会参加</p> <p>(2) 教育課程・日本語能力・日本語プログラム 課題に関連する言語能力と日本語プログラムの実施</p> <p>(3) 実践事例に学ぶ 活動参加のための日本語支援の工夫 理解支援・記憶支援・表現支援・情意支援・自律支援 支援がなくても、自分で遂行・解決できるようになることが重要</p> <p>3 組織化による多様性・包摂性の実現 (1) 多様性に開き包摂性をもつ社会の一員の育成 (2) 市民性の育成 多様な価値観や文化で構成される社会に、自立した個人として参加し、 多様な他者と関わりながら、よりよい社会の実現に向けて参与できる力を 育む</p> <p>4 支援の充実のために教育者に求められる資質・能力 育む力：外国人児童生徒等と周囲の子どもの相互作用を通して、双方に 異文化間能力を育てることができる つなぐ力：保護者や地域の関連者と連携・協力して、よりよい支援・ 教育のための学校体制をつくることができる 変える変わる力：外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、 自己の成長につなげることができる</p> |
| 相談後の方針の変化、今後の取組方針等 | <p>当日は、国際教室担当や日本語指導講師は対面で行い、オンラインでも学校関係者が参加できるようにした。管理職や在籍学級担任、支援教育コーディネーター、教科担当、専科、総合教育センター、特別支援センターなど様々な立場から研鑽を積む機会とすることができた。</p> <p>齋藤先生には、本市の状況と課題を理解していただき、様々な立場にある研修受講者に向けて、豊富な事例を示しながら幅広い内容の講演を行っていた。先生の著作を読んだり研修等を受講したりしている先生も多くおり、直接お話を伺ったことで新たな知見を得て、実践につなげていこうとする振り返りが見られ大変有意義な研修となった。</p> <p>齋藤先生とも相談して、振り返りアンケート項目に「今日の講演会での学びや獲得した知見などを、明日からのご自身の実践でどんなふうに生かすか。」「今日の講演会での学びや獲得した知見などについて、学校でどのように共有できそうか」を設けたことで、より学校の実態や子どもたちの姿に即した支援の充実につながる実践力を推進することができた。</p> <p>今後も、学校や日本語指導者への研修や情報提供を行い、支援の充実を図ることと、担当指導主事の各校への訪問相談の機会を生かして、学校全体での組織的連携についても実態に応じた支援を行っていききたい。また、日本語指導に関わる情報や実践事例などをまとめたサイトを作成し、情報にアクセスしやすい環境づくりを通して川崎市全体の支援に厚みをもたせたい。</p> |

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。